

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(111)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(111)—

1. 始めに

前報(110)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は声楽曲です。

EMI EAC-81060

モーツアルト モーツアルト歌曲集

エリザベート・シュワルツコップ (ソプラノ)

ワルター・ギーゼキング (ピアノ)

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

EMI 盤ということで、EMI、逆相、第4時定数 High で聴いていきました。

このモーツアルト歌曲集は、シュワルツコップの歌曲の代表的な盤とされており、収録された歌曲はいずれも定番の作品です。

シュワルツコップの透明感のあるソプラノで若やいだ歌唱が聴きどころですが、曲によっては力強く前に出てくる歌唱もあります。

伴奏は、重厚なギーゼキングのピアノリズムで、シュワルツコップを支えています。

録音年代は不明ですが、ギーゼキングは1956年の没とされていますので、録音はそれ以前ということになりますが、レンジ感はそれほどでもないものの、録音年代を感じさせないフレッシュな演奏が聴けます。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレック、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上/